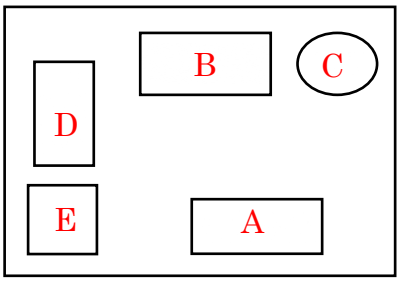
１．唐木田稲荷神社



祭神は倉稲魂命、猿田彦命、大宮売命で創建年代は未詳です。『武蔵名勝図絵』には、天正 18 年(1590)、八王子城に籠城して討ち死にした「島崎某」という武士の居館が棚原にあったとされ、馬場の跡や、島崎氏の鎮守のあった稲荷森があり、「島崎屋敷」と呼んでいたとあります。宝暦 13 年（1763）作成の『落合村旧記』には「唐木田稲荷明神ハ藤太郎之地也、谷戸中之氏神也」とあるので、近隣の氏神であったようです。多摩ニュータウン開発により、平成元年（1998）10 月に再建されました。

A

B

E

C

D

鳥居（A）をくぐると、向かって左側（B）に本殿が見え、その右側（C）に開発時に近隣から集められた石仏が建っています。江戸時代に建てられた①秋葉山供養塔（寛政 11 年（1799）9 月建立）、②石祠（お伊勢様）（寛政 12 年（1800）10 月建立）、③庚申塔（寛政 12 年（1800）10 月建立）、④馬頭観音（文政 2 年（1819）建立）のほか、昭和 3 年に多摩村青年団によって建てられた⑤道標・記念碑（昭和 3 年（1928）建立）も見られます。覆屋（D）には、①地蔵菩薩（宝永 5 年（1708）2 月建立）②庚申塔（文字塔）（宝永 5 年（1708）2 月建立）③双体道祖神（寛保元年（1741）6 月建立）④薬師如来、⑤大日如来（寛政 3 年（1791）9 月建立）、⑥聖観音、⑦魂勢宮（慶応 3 年（1867）のものを昭和 52 年（1977）に再建）、などかつて近隣にあった石仏が安置されています。このうち双体道祖神は男女の神が並び立つもので、多摩市ではほぼ唯一の作例です。石仏の多くには唐木田三家のひとつ横倉氏の名が記されており、当時、横倉家がこの地域で有力な豪農だったことがうかがい知れます。

「参考文献は資料１１に記載」

２．砦山

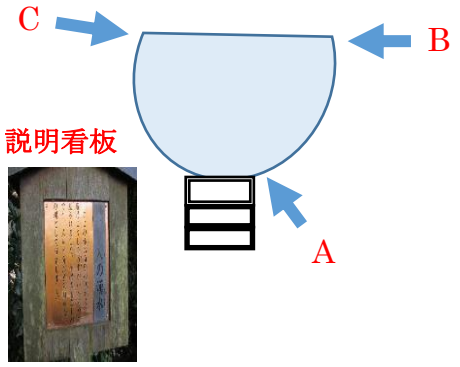
説明看板

砦山からみた唐木田の街並み

地元の方からは「犬の谷戸」と呼ばれていた谷戸の先端の尾根部分。地元には、①鎌倉時代、小山田城主の側室が住んでいたという伝承と、②小田原北条氏が支配した戦国時代に、この場所に「唐木田の隠し砦」と称される烽火の中継所が築かれ、八王子城の火急を小田原に告げる烽火が上がったものの、番兵たちが酒盛をしていて気が付かず、八王子城は落城したという伝承が伝わっています。小山田氏は、鎌倉時代に実在した一族で、その居館跡は町田市の大泉寺と伝えられています。

「参考文献は資料１１に記載」

3. 寺の入りの湧水



わき水が沸いている場所ですが、地名の「寺の入」というのは寺の入り口を想起させます。『多摩市の町名』によれば「えいしょう院に通じるところ」とあり、何らかの寺院などがあった可能性があります。また、向かい側には堀合堰があり、その上には江戸時代以前に東福寺があったとされています。東福寺が現在の青木葉に移転した後には、地蔵院が置かれ、その後、明治の初めには処仁学舎という学校となり、現在の第三小学校の前身となりました。

「寺の入」の「寺」がどの寺を意味するのかは現段階では不明ですが、かつて近隣に東福寺・えいしょう院など様々な寺院・塔頭がみられたことの名残といえるでしょう。

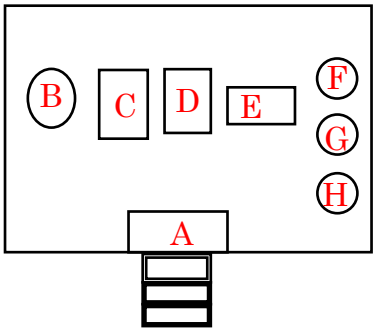
「参考文献は資料１１に記載」

A

B

C

４. 秋葉神社・中組稲荷神社・御嶽神社



※現在の境内は、開発の際に、地形 10mを切り下げています。
（１）秋葉神社：天明 2 年（1782）勧請（B）
三本松に住んでいた古狐を焼き殺してしまったことから、上落合に火事が次々起きたため、遠州の秋葉神社に代参をたて、天明 2 年（1782）に火伏せの神として勧請しました。中組だけではなく、上落合全体（山王下・中組・唐木田）で祀っています。（『落合名所図絵』より）

（２）御嶽神社：４月に武州御嶽山へ代参をたて、お日待講をおこなっていたといいます。（C）

（３）稲荷神社　慶長年間？（D）
『落合村旧記』には「地蔵院稲荷之社豊後之地所也　中組通り之氏神也」とあり、川井豊後の所有地に建てられた中組集落の氏神とされています。また、『落合名所図絵』『落合風土記』によれば「慶長年間（1596-）の創立と伝えられる。稲荷さまは農家の守り神として受け継がれ、初午の日は氏子のお日待講があったり、子どもたちが神社に集まって甘酒を作ったり、太鼓を打ち合うなどしていた。草葺きの屋根は昭和５１（1976）年に解体し、新社殿となった。石段の左横には樹齢３００余年の山桜があり、区画整理の際に伐採となった。幹が集会所に保存されている。開発前は、稲荷社の下段に地蔵院があり、左横の上段に秋葉神社があった。」とあります。

A

B

C

D

E

F

G

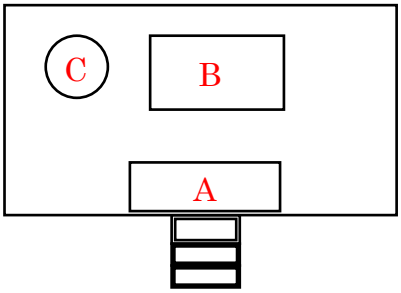
H

（３）地蔵院と東福寺について
　秋葉神社の登り口右側には明治まで「地蔵院」がありました。地蔵院は、元和年中（1615ー）に建立され、その後、宝永年間（1704ー）に中興されたといいます。明治時代に神仏分離令で廃寺となり、跡地はその後、処仁学舎という学校に使われました（処仁学舎は多摩第一分校（現・第三小学校の前身））。地蔵院の場所にはもとは東福寺があったといいます。元和年間に東福寺が青木葉に移転したため、地蔵院が建てられたそうです。

（４）地蔵院跡地の地蔵について
　地蔵院跡地には、宝永６（1709）年建立の地蔵尊、天明２（1782）年の六地蔵、寛政 11（1799）年の庚申塔が残されていましたが、区画整理により中組稲荷神社の境内に移動されました。昔の記録では、地蔵尊の念仏講がおこなわれていたとあり、平成元（1989）年の移転完成時には、念仏講を復活させたそうです。石仏は以下の通りです。
①伝・伊勢講祠（年代不明・銘なし）
②読誦塔・地蔵菩薩　宝永 6 年（1709）10 月
③六地蔵　天明 2 年（1782）10 月
④庚申塔（文字塔）　寛政 11 年（1799）
庚申塔については、昭和 8 年以前は入の谷辻にあったといいます。

「参考文献は資料１１に記載」

5. 中沢神明社



A

B

・中沢神明社（A）（B）

祭神は天照皇大神で、『新編武蔵風土記稿』にも見えます。もともとは個人（横倉氏）の屋敷神であり、その後、山王下・中沢が共同で祀るようになったそうです。多摩ニュータウンの造成により、昭和 59 年（1984）に現在地に移転しました。

※旧在地と現在地はほとんど変わっていませんが、造成により、土地の高さが大幅に低くなったといわれています。

『落合村旧記』には、「中沢神明之社ハ四郎左衛門地なり中通リ氏ノ神」とあります。

C

（１）大日如来および誌碑　寛政 6 年（1794）（(C) ②）

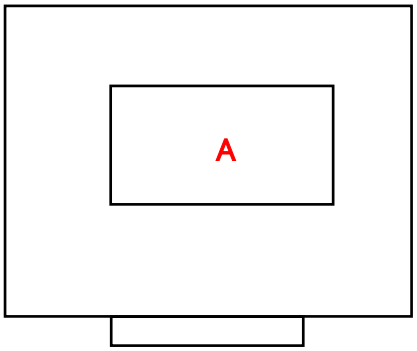
中沢神明社境内に所在。大日如来像は無銘ですが、誌碑に「(種子：金剛界大日如来）奉新造立石仏一体・寛政六寅年十月八日為二世安楽也」とあります。

（２）出羽三山供養塔（(C) ①）

銘には「羽黒山・湯殿山・月山・三山大権現」とあります。出羽三山とは、山形県の三つの山（羽黒山・湯殿山・月山）のことで、先祖供養や五穀豊穣等を祈念して、参詣されました。三山参りは江戸時代に全盛となり、各地に供養塔も建立されました。湯殿山の本地仏が大日如来であるため、大日如来像を造立することもあったようです。

「参考文献は資料１１に記載」

6. 山王下の道祖神



A

（１）庚申塔　元禄２年（1689）①

　銘には「奉供養庚申為二世安楽　元禄二年三月廿三日」とあり、多摩市内では、二番目に古い庚申塔です。60 日ごとにやってくる庚申の夜は、眠ると三尸虫が体の中から抜け出し、天帝に罪過を告げるため、それを防ぐために夜を明かすなどともいわれました。さらに、猿を神の使いとする日吉山王の信仰や、庚申を農耕神とする信仰などとも結びついて、室町期以降に民間に広まったといいます。庚申を仏教では青面金剛とし、神道では猿田彦とするため、庚申塔には、青面金剛・三猿の画像が彫られます。また、猿田彦は塞の神（さいのかみ）とみなされ、村境などの境界に立てられることも多くありました。

（２）道祖神　安政２年（1855）②

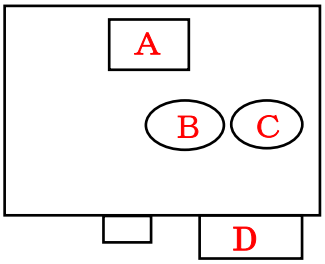
　もともと個人の庭内にあり、過去に移動はあったものの、現在の位置はもとの位置とほぼ同じ場所であるそうです。銘には「道祖神　安政二乙卯八月日山王下講中」とあります。

※道祖神とは

「サエノカミ」「サイノカミ」」（塞の神）「ドウロクジン」（道陸神）ともよばれる。道の辻や武佐の境などに祭られる境の神。旅の神や道の神などとも考えられ、村の入口や峠などに祀られる事から、境を守り、悪魔を追い払う神といえる。正月 15 日にはドンド焼きをおこなうので、子どもの神でもあるという。

「参考文献は資料１１に記載」

7. 金毘羅祠･鶴供養祠瘡守稲荷神社



A

（１）瘡守稲荷神社・正一位稲荷神社
瘡守稲荷神社の創建は、元文５年（1740）３月と伝えられ、安政４年（1857）に再建され、正一位稲荷神社と合祀されました。現在地は昭和 42 年（1967）、多摩ニュータウンの事業用地として買収された場所で、昭和 47 年 4 月に稲荷宮、地蔵尊、金毘羅宮、弁天宮が四社移転建設委員会により再建されました。瘡守稲荷はできものができると、土団子を供えて祈願し、全快すると米の団子を供えてお礼参りをしたといわれています。また、正一位稲荷神社は、個人の屋敷神であったとも言われますが、確かなことは不明です。

B

C

D

（２）金毘羅社（石祠）(C)－①
創建年代は不明です。かつては「正一位稲荷神社」と同じ場所に祀られていたともいわれています。

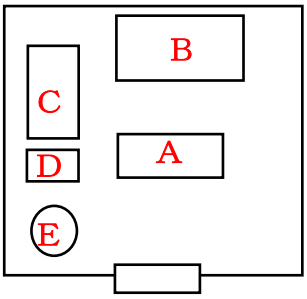
（３）鶴供養祠(C)－②
創建年代は不明です。もとは、現在地より北西 120mほどの山中にあったといわれています。
次のような伝承が伝わっています。「足をいためた鶴を農夫が介抱したものの、鶴が死んでしまった。江戸時代には、「鶴を捕らえると打ち首になる」という掟があり、農夫の話も役人に伝わったが、名主が機転をきかせて「農夫は鍋のツルを打ってきたので、鶴を打ったのではない」と説明したため、咎めなしであった」。この伝承が、「鶴牧」という地名の由来ともなったともいわれています。なお、金毘羅社・鶴供養祠には、内部に柚木守重氏（教員・社掌）筆記の木札が入っています。

（４）弁天祠(B)
創建年代は不明です。水の神様で、かつては池の端にあったものと伝えられます。いったん池の下側から上側に移され、その後、多摩ニュータウン開発により現在地に移転したそうです。

（５）境外の地蔵群(D)
①岩船地蔵（享保 5 年（1720））、②地蔵菩薩（天宝 6 年（1835））、③地蔵菩薩（慶応 2 年（1866））、④水子・子育地蔵（昭和 62 年（1987））が見られます。このうち、①岩船地蔵とは、享保 4 年から 10 年迄の 7 年間に爆発的に流行した岩船信仰により立てられた地蔵です。この岩船地蔵には、「奉造立岩船地蔵菩薩信心男女」という文字が刻まれています。

「参考文献は資料１１に記載」

８．下落合八坂神社



A

E

下落合八坂神社の祭神は素戔嗚尊で、創建年代は不明です。下落合（上之根）講中で祀られてきました。昭和 55 年、多摩ニュータウン開発のための造成のため、周辺の神社や石仏などと共に現在の場所に祀られました。境内の碑（E）にはその経緯が記されています。社殿（B）のなかには、山王神社・弁天神社・三峰神社・榛名神社・御嚴神社・金比羅宮・八幡神社などが祀られています。この付近では瓦が出土し、「砂取場」と呼ばれていました。

B

多摩ニュータウン開発前に周辺にあった石仏が集められています。①道祖神（安政 3 年）、②石橋供養塔（明治 5 年）、③馬頭観音（文久元年）、④聖観音立像（嘉永 5 年）、⑤庚申塔（享保 5 年）、⑥石橋供養塔（明治 5 年）、⑦地蔵菩薩（念仏供養塔・元禄 10 年）、⑧六地蔵（安永 8 年）、⑨地蔵菩薩（安政 3 年、慶応 3 年）、⑩地蔵菩薩（廻国塔・宝暦 3 年）、など数も多く、種類も多彩です。このうち、聖観音立像はかつて三本松付近に建っていたものです。

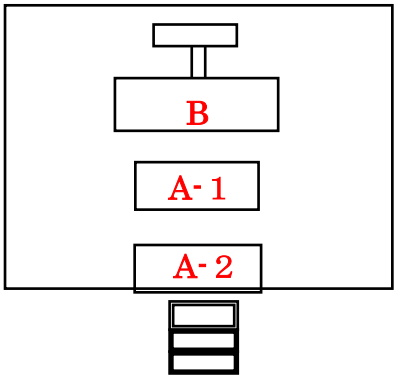
「参考文献は資料１１に記載」

D

C

C

９. 乞田八幡神社



A-1

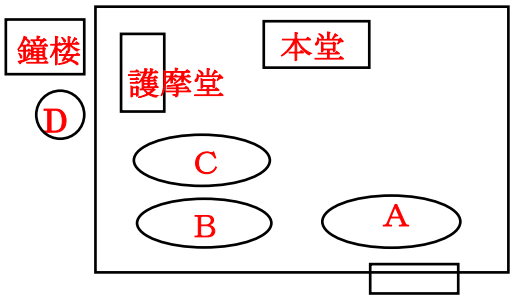
A-2

B

乞田八幡神社は旧・乞田村、貝取村の鎮守で、延徳 2 年（1490）9 月の創建伝承を持ちます。天和 2 年（1682）再建の棟札控には、上乞田・下乞田・貝取・宇竜（瓜生）の 4 か村の村民の名が記され、遷宮導師・吉祥院や大工の名前が記載されています。もともとの祭礼は 9 月 15 日でしたが、現在は 9 月第二日曜日におこなわれています。もとは、隣の多摩幼稚園（現・多摩市子ども家庭支援センター・たまっこ）の場所に本殿がありましたが、京王線の高架が通ることになり、「子どもたちの居る場所が日影ではいけない」として、本殿と幼稚園の場所を交換したそうです。当時本殿のそばにあったケヤキの木は、現在の幼稚園の敷地内にそのまま残されました。

「参考文献は資料１１に記載」

１０．吉祥院



正門

本堂

吉祥院は、山号は「唐沢山」、寺号は「安養寺」という真義真言宗の寺院です。尊慶和尚による開山と伝えられます。乞田八幡宮の別当寺として、天和２年の再建などの時には、吉祥院の僧が導師を務めました。また、戦時中には、品川の山中国民学校の学童疎開を受け入れ、学寮となりました。寺院内には関戸村出身の絵師・相沢五流による板絵があります。吉祥院は多摩ニュータウン開発の際に、檀家の個人墓や近隣の石仏を受け入れています。また、近年も開発により行き場の無くなった石仏の移転先になっています。

A

B

C

鐘楼

D

山門前に並ぶ石仏群（A）は、①六地蔵（寛政９年）、②徳本念仏塔（文政７年）、③地蔵菩薩（年不明）、④橋供養塔（文政７年）、⑤地蔵菩薩（延宝７年）などです。このうち②徳本念仏塔は、十九世紀前半に、各地を訪れ念仏を広めた徳本上人（1758-1818）の名号を刻した念仏塔で、独特な書体で「南無阿弥陀仏」の六字名号が刻まれています。多摩市では豊ヶ丘に吉祥院と個人宅にあわせて二基の徳本名号塔が確認されています。①は、かつて谷戸根に、⑤は八王子市松木にあったものと伝えられています。
また、唐木田の墓地にあった石仏も多摩ニュータウン開発により移転し、山門前に安置されています（C）。首のない六地蔵は、寛保２年に上落合村の横倉与兵衛によって建立されたものです。
さらに、近年、かつて豊ヶ丘１丁目の地蔵堂内にあった石仏も吉祥院に移転しました（B）。①地蔵菩薩（廻国塔・年不明）、②地蔵菩薩（巡拝塔・文政４年）、③庚申塔（正徳３年）、④馬頭観音（安政３年）、⑤馬頭観音（万延２年）などが移設されています。
鐘楼の隣には、宝篋印塔（寛政８年）も見られます（D）。

「参考文献は資料１１に記載」

１１．その他の周辺で見られる石仏と参考文献

このほか唐木田共同墓地（多摩市唐木田１丁目）には永代融通念仏盟約塔（寛政３年）などがあり、個人宅内におしゃもじ様の石祠（年代不明）、お伊勢様の石祠（平成元年再建）、水神祠（宝暦７年）などが残されています。また、乞田の大貝戸と呼ばれる付近の市有地には、岩船地蔵（享保４年）、馬頭観音（天保 11 年、弘化４年、慶応２年）、土公神（弘化４年）、庚申塔（享保７年）、地蔵菩薩（年未詳）が安置されています。落合白山神社には、土公神（安政５年）、神明社の石祠（寛政６年のものを昭和 58 年再建）、石坂供養塔（宝暦２年）などが残されています。市内には様々な石仏がありますので、ウォーキングの際には石仏にも目を向けてみてください。

※本稿に使用した石仏の情報は、多摩市教育委員会＆パルテノン多摩「石仏調査会」の成果をもとに記載しました。また、その他以下のような参考文献を用いました。

峰岸松三 1977・1989『落合名所図絵』私家版
横倉鋭之助 1977 - 78『唐木田ものがたり』1－3　私家版
喜井哲夫 1978『多摩市の石仏（多摩市文化財調査資料）』多摩市教育委員会
多摩市都市整備部都市計画課編 1992『多摩市の町名－市政施行 20 周年記念－』
多摩市史編集委員会 1997『多摩市史　通史編１』・『多摩市史　民俗編』
多摩市教育員会・パルテノン多摩 2011『開発を見つめた石仏たち~多摩ニュータウン開発と石仏の移動～』

・解説（資料１－１１）：橋場万里子　　パルテノン多摩共同事業体学芸員

現在、地域史全般を担当。「武蔵国一之宮」、「関戸合戦」「災害と多摩」、「多摩・商店ことはじめ」、「アニメーションと多摩」「調布玉川惣画図の旅」、「刀鍛冶と文明開化」等の展示を手がける。

・写真・編集：多摩市健康づくり推進員